

おとなのミッション：持続可能な社会の創り手の育成

子どものミッション：ミュージアムジャック

基本情報から記入してみましょう。

事前に共有しておいたほうがよいことをシンプルに示しました。

チェックリストとして活用することも可能です。

基本情報

学校名	社会教育施設、団体等の名称
京都聖母学院小学校	エコロジーセンター
所在地	所在地
京都府京都市伏見区深草田谷町1	京都市伏見区深草池ノ内町13番地
教育理念・教育目標等	目的・使命等
自分と周りのつながりの中で、 学びや関係を育む。自分をさらに好きになり、さらに強く、自分の力を高めていくために必要なことに向かって真正面から取り組む素直な姿。創造性豊かな子ども、誠実な子ども、人を大切に、奉仕の喜びを知るこどもが目指すことも像	「持続可能な地域社会」の実現に向けて、様々な環境学習プログラムが展開され、環境保全活動を行う人が「育つ場」、その活動を「支援・連携する場」、環境保全活動の成果を「発信する場」となる。

対象となる子どもの実態

子ども、先生の課題意識からスタートするので、クラス単位での実践がより効果的であると思われます。

学年	クラス	人数
4 年	総合フロンティア	名
子どもの実態	子どもの課題意識	
社会科で水やゴミに関することを学び、環境に興味をもっている。持続可能な社会を育む一員としての意識はある。また、これまでの経験から相手に情報を伝えたい気持ち強い。	調べ学習がただ情報の鵜呑みのものになるのではなく、自分の生活体験や校外学習によって発見したものなどが含まれるものとなしてほしい。また、プレゼンテーション制作に関しても相手意識をもって写真や文字のデザインをし、発表できるようにする。	

めざす子どもの姿(単元目標)

方向目標で書き、双方で共有しましょう。

京都の環境大使になろう(仮)

地域の方へ

学校の先生が子どもたちをよく見せようと張り切りすぎないように、チェックしてください。

やる気になれば、子どもたちは試行錯誤を繰り返し、ミュージアムジャックに向かっていきます。

極端な正確さや見栄えだけを求めると、リアルごっこ遊びの魅力が半減します。

次ページのミュージアムジャックのアウトラインや報告書(「ミュージアムジャック概要」と「実践報告」スライド)を参考に、双方で考えてみましょう。

総合的な学習の時間を核としながら、他教科との連携も意識してください。

ミュージアムジャックの構想

	ストーリー	スケジュール	子どもの活動と思い・願い
モジュール0 身近な課題との出会い	3年生 社会 ・京都について学ぶ		社会科の授業の中で京都市の文化、施設、伝統について学び、体験に基づいた探究を行う。 ⇒体験を知識に変え、知ったことを人に伝えたいと思う。
	4年生 社会		自然合宿で宮津へ行き、海の環境について学ぶ。 ⇒天橋立の環境を守る人をしり、環境の大切さを考える。
モジュール1 対象との出会い 「リアルごっこ遊び」に巻き込む仕掛け	エコライフチャレンジ	9月初旬	ゴミを減らしたり、水を節水することで環境負荷を減らすことができる。 ⇒自分のくらしの中で「自分でできること」を考える。
モジュール2 調べてみる さまざまな方法(繰り返し訪問、図書館、インターネット、ヒアリング...)で	エコロジーセンター訪問 くらしとごみ/くらしと水	9/29 2時間	展示室見学 ⇒環境について学べる施設があることを知る。 ごみ減らし隊ワークショップ参加 ⇒ごみを減らすさまざまな方法を知る。 ゴミを減らしたり、節水する活動を暮らしに取り入れる。 ⇒暮らしに取り入れた自分の活動を継続して行う。 自分の行った活動を広げる。 ⇒校内の人に活動を伝える(知らせる)方法を考える。
モジュール3 つくって、試してみる それぞれの得意なところからのガイディング ※録画画面を設定することでより一層学びは深まります	環境大使になろう エコロジーセンター職員による偵察	10/27	ゴミを減らしたり、節水するための啓発展示を作製する。 ⇒体験しながら知らせる方法を考え作る。 ゴミを減らしたり、節水するための啓発展示を見学、助言してもらう ⇒校外の人に見てもらうことで、さらに良いものにする。
モジュール4 ミュージアムジャック	「SEIBO KISDS 2R PARK」(仮)	12月12日 ～ 1月16日	ミッションを与えられる。(啓発展示)

